第２版の序

本書は『基礎から学ぶ生物学・細胞生物学』というタイトルで，大学1，２年生向けの生物学の教科書として2006年11月に出版された．本屋さんの片隅で，他の優れた教科書の陰に隠れて，やがて消えていくのではないかという著者の懸念とは異なり，幸いなことに多くの方に受け入れていただき増刷を重ねることができ，今回，第２版を出版できる運びとなった．支持していただいた読者の方々にはお礼を申し上げるとともに，誤りに対するご指摘，さまざまなご教示をくださった方々にもお礼を申し上げる．増刷の度に指摘していただいた誤りを正してきたつもりだが，今回，もう一度読み直して，まだ誤りや文章の至らなさが残っていることを見つけ，製造物責任法（PL法）にひっかかるのではないかしらと，汗顔の至りだった．

第２版を制作するにあたっては，誤りとあいまいな記述は徹底的に除き，本の分量をあまり増やすことなく新しい知見とトピックを若干加え，さらに各章の末尾に「確認問題」を加え，索引を充実させた．特に確認問題は，自分で解答を作ることによって，もう一度読み直し，あいまいなところを整理することを促すような設問，また自分で積極的に調べることを促すような設問になるよう努力したつもりである．蛍光ペンでただ印をつけて重要語句を覚え込むだけでなく，それらを使って自分の言葉で，わかりやすく説明する努力をしてみてほしい．そのために参照や索引を多くした．初版の「序」に書いたように,「しおり」を挟んで「行ったり来たり」の作業を繰り返してみてほしい．

といっても，生物学を学ぶことがおもしろくなくては意味がない．これも初版の「序」に書いたことだが，そのために，本書はなるべく記述にストーリーを持たせるように書いたつもりである．また，教科書に主張があってもいいと思って，そのような書き方をしてある個所がふつうの教科書に比べたら多くなっているはずである．その主張とは,「生物多様性の認識」と「生き物バンザイ」ということである．ここには，ヒトもこの地球上の生物の一員なのだという自覚が込められている．2010年は「国際生物多様性年」であり，10月には「COP10（生物多様性条約第10回締約国会議）」が名古屋で開かれた．生物の多様性が失われつつあることに，ヒトはかなり責任があるのだと考える必要があるのだと思う．

生物を見ていると，どんな生物でも与えられた条件で精一杯生きていることを感じる．地球上の生物の一員として，そういった仲間の生き方を，生物学の視点で見ることができることはとても重要なのだと思う．生物学の情報量はますます増加しているけれど，それぞれの情報のつながり方が理解でき，どういう視点でとらえたらよいかがわかれば，あとは必要に応じて調べれば自ずと理解できるはずである．すべての人が生物学の基礎を理解することがますます必要なのだと思う．ここに書かれたさまざまな知識やダイナミックな生命現象を理解しながら，生物のおもしろさを感じていただければ幸いである．

2010年12月

和田　勝